

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○7月7日～

先週発表された雇用統計が予想より強く、米国の早期利下げへの期待は後退しましたが米国株は強い動きとなり、NYダウも4万5000ドル目前まで上昇し、ナスダックは連日史上最高値更新となっています。

ただし、日経平均は関税リスクなどから7月に入ってからの上値が重い動きとなっています。

昨年は日経平均が4万2000円を超えた7月11日をピークに8月初めにかけて大暴落しました。

先週4万円を超えるところまで上昇しているだけに下落に転じるかどうか気になります。

為替相場は株式市場のような盛り上がりはなく、ドル/円の上昇は限定的です。

ユーロやポンドに対してもドル安の動きとなっているためドル安が夏以降も進むかどうかも見たいです。

米国は、新たな税率を記した通知を各国に送ると発表しました。新たな税率は8月1日から徴収されるということです。最大で70%になるようです。10%～70%までの税率ということで、かなりの差が見られます。まずは7日に12カ国に関税率を通知するということです。

ベトナムとは20%の税率で話がついています。第3国からの積み替え品には40%の関税をかけるということですが当初の46%から考えると低い税率で話がまとまっています。

しかし、ほとんどの国の税率がまだ不明です。

日本については、一部で24%がさらに上がって30%や35%になるのではないかという話も出ましたが週明けにどうなるかです。

7月9日の期限が来週に迫るということで、今週中に多くの国の関税率が判明しそうです。

EUやインドなどの税率がどうなるかも気になります。

インドは報復関税も考えているという報道もあり、米国が提示した関税に納得がいかない場合、報復に動く国もあるかもしれません。

そして、トランプ減税・歳出法が成立しました。企業や富裕層優遇という批判も一部で出ています。財政の持続可能性を疑問視する声もあり、関税による収入でバランスを取ることができるのかも注目です。

そして、米国債市場を安定させるためにFRBは銀行資本規制の緩和計画を25日に発表しました。現状では米国債がリスクの高い資産と同等に扱われていますが規制緩和することで、銀行が持つ米国債の保有リスクを減らすことができます。

ほかにも英国はトラス政権の時に大規模減税策を決めたとたんポンド安、英国債売りとなり金融市場に激震が走りましたが、先週もリープス財務相の更迭の憶測でポンドや英国債が不安定な動きになりました。英国の財政問題に市場が神経質になっていることも心配です。

今週もニュース次第で大きく動くリスクがあるので、慎重にトレードしていきたいです。

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

### ● テクニカルで見た重要ポイントは？

#### <ドル/円>

先週のドル/円は142.6円あたりを底に週の後半は強い動きとなりました。

木曜の雇用統計の結果が強かったため145円台まで値を伸ばしましたが、144.5円あたりまで下げてマーケットは終わっています。

6月に入ってから142円台では下げ止まるという動きが続いています。

下値が143円台後半を維持できれば強い動きが期待できそうです。

143.5円を割り込むと142.6円、その下は142円のサポートが意識されます。

142円割れとなると円高進む可能性が出てくるため注意がいらいます。

上値は145.3円を超えると146円あたりの抵抗が意識されます。

146円を超えてくると148円を目指す動きが出そうです。

#### <気になるクロス円>

ユーロが170円を超える強い動きとなっています。週足で見ても5月末からずっと陽線が続いています。昨年7月につけた高値175円を目指す動きになるか注目したいです。

多くのクロス円が4月の急落を底にした上昇が継続しているため、上昇がいつまで続くかに注意しながら取引していきたいです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

#### <今週のファンダメンタル？>

日本では5月貿易収支、6月景気ウオッチャー調査などがあります。

米国ではFOMC議事要旨、前週分新規失業保険申請件数、6月月次財政収支などが発表されます。

欧州ではドイツで5月鉱工業生産、5月貿易収支、6月消費者物価指数、ユーロ圏で5月小売売上高などがあります。

ほかには、オーストラリアとニュージーランドで政策金利、英国で5月GDPの発表などがあります。